

令和元年度 ACTR

分類 番号	A15	取組 名称	精華町における森林ゾーニングと森林管理保全指針の作成
研究代表者所属・職名：		生命環境科学研究科・教授	氏名： 長島 啓子
研究担当者：			
[京都府立大学] 長島啓子, 長澤淳一, 武田征士, 神代圭輔, 研究協力者：原田喜一 [外部分担者・協力者] 精華町産業振興課：塚田寛氏, 岩崎智代氏, 上村邦雄氏, 中本沙也加氏 京都先端科学大学：田中和博氏			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
精華町産業振興課, NPO 法人ふるさと案内人の会			
【研究活動の要約】			
2019年度から新たな森林経営管理制度として国の森林環境税による助成措置が始まっている。森林の適切な管理が求められ、それができない森林は市町村が代わりに管理する制度も盛り込まれている。そのため市町村は、精華町も含めて新たな森林経営管理制度に対応する必要がある。本ACTR研究は、①精華町内の森林保全について具体的な指針を定めるため、森林ゾーニング案を作成すること、および、②個々のゾーニングについて、具体的かつ実行可能な森林管理保全指針を作成するとともに、人工林、竹林、広葉樹林の資源量を把握した上で、町内に設定したモデル地区において、森林管理保全指針の具体策の適否について、実証的に検討することを目的としている。本研究は2年計画で実施しており、本年度は森林管理保全指針の作成にむけ、精華町の森林や生物多様性の現状把握と森林ゾーニング案の作成を行った。			
【研究活動の成果】			
1) 林相区分図の作成および人工林の現況調査 林相区分図の作成の結果（図1），広葉樹林が約300ha，竹林が約240haで，森林域の林相の多くを占めていた。人工林の現況調査の結果，竹林や雑木の侵入が見られ，人工林の資源量把握には詳細な調査が必要であることが判明した。			
2) 里山自然度調査および生物多様性調査 口谷湿地における調査の結果，夏季に 88 種，冬季に 83 種の合計 153 種が確認された。確認された種には他の都道府県で絶滅が危惧されているものもあり，精華町の豊かな自然を確認することができた。また，東畑においても季節毎の植物を示した Stroly マップを完成させた（図 2）。			
3) ゾーニング（案）の作成 土砂災害警戒区域、ふるさと案内人のルート（図3）、獣害対策の情報（図4）をデジタル化し、これらをもとに精華町を「里山減災ゾーン」「里山文化景観ゾーン」「里山水辺ゾーン」「里山再生ゾーン」に分類した森林ゾーニング案の作成を行った（図5）。なお、「里山再生ゾーン」は竹林拡大防止策や広葉樹資源の利用促進を通して里山の再生を行うゾーンであり、本研究では小学校区ごとにこれらの活動の実施可能性が高いモデル地区候補地を選定した。			
【研究成果の還元】			
新型コロナウイルス感染拡大防止により，当初予定をしていた中間報告会については，2020 年 4-5 月に開催し，ゾーニング（案）の説明や里山自然度調査および生物多様性調査の結果報告を実施する予定である。また，2020 年度には，本ゾーニング（案）や調査結果をもとに，町役場や地域の関係者などから構成される精華町森林管理保全指針検討委員会（仮称）において，具体的かつ実行可能な森林管理保全指針を作成し，モデル地区候補地において指針を達成するための具体策について検討する。			
【お問い合わせ先】			
生命環境科学部 森林計画学研究室 教授 長島 啓子 Tel: 075-703-5635 E-mail: nagakei@kpu.ac.jp			

参考 (イメージ図、活動写真等)

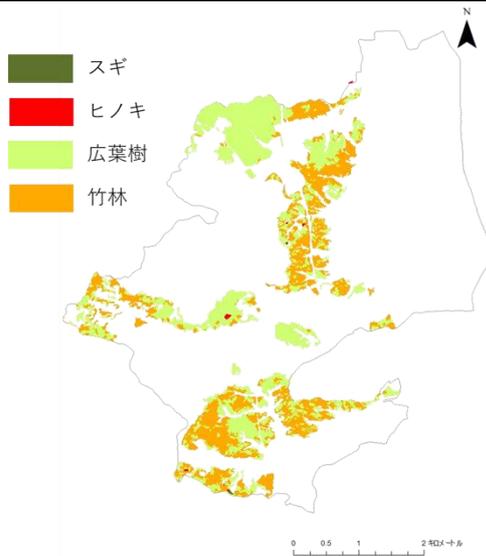


図1 林相区分図



図2 東畑の Stroyly マップ

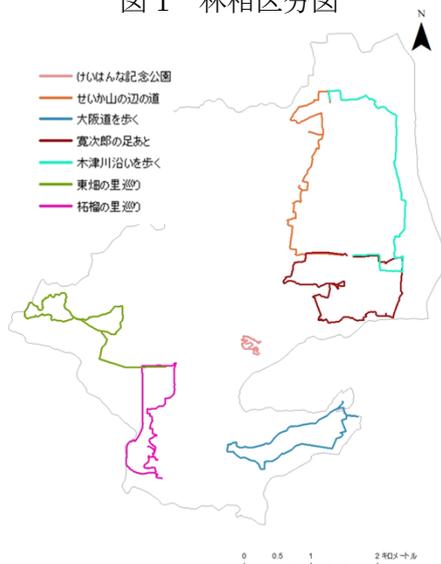


図3 ふるさと案内人の主要な案内ルート

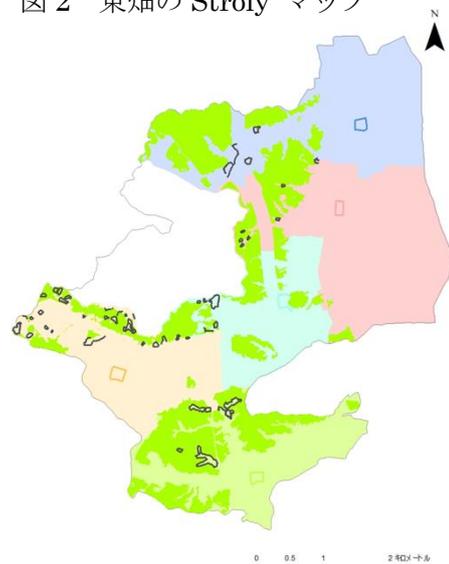


図4 獣害対策区域

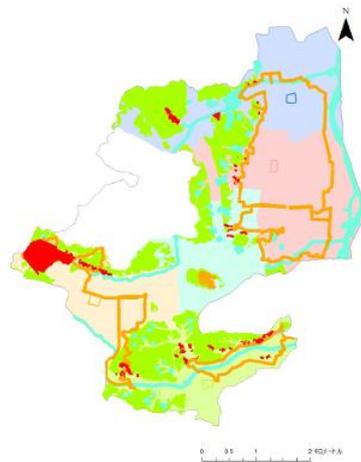


図5 ゾーニング (案)

※1：竹林拡大防止策や広葉樹資源の利用促進を通して里山の再生を行うゾーンであり、体験学習の森や住民活動ゾーンのモデル地区にて具体策の検討を行う予定である。

